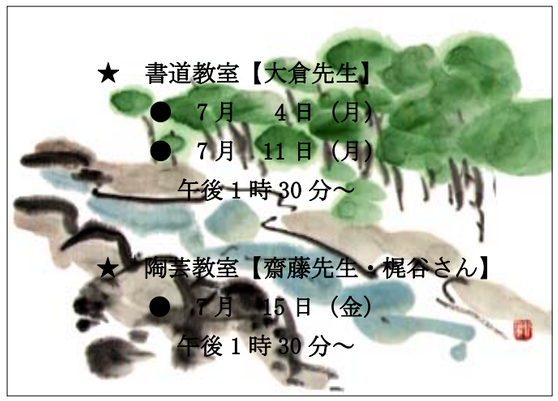
～６月の全国名物メニュー～

６月の全国名物メニューは高知県の「鰹のたたき」をお出ししました。地元では「土佐作り」と呼ばれる郷土料理です。スライスした玉葱の上に表面を炙った鰹を乗せ、刻んだ長葱や茗荷、大葉、下ろし生姜等の薬味をたっぷり盛り付けました。お好みでポン酢や醤油を付け、さっぱりと召し上がって頂きました。

～節電への取り組み～

政府並びに関係官庁、東京電力の強い要請を受け、当施設では契約電力を１５パーセント下げる取り組みを行います。使用していない場所の照明や空調機器は電源を落とし、国を挙げての節電に協力致します。しかし極端な節電に走って、利用者様や家族様にご迷惑をお掛けする様な状況は作りません。節電に関してお気付きの点等ございましたら、遠慮なくお申し出下さい。

～７月の趣味の教室～



★　書道教室【大倉先生】
- ●　７月　４日（月）
- ●　７月　11 日（月）

午後１時 30 分～

★　陶芸教室【齋藤先生・梶谷さん】
- ●　７月　15 日（金）

午後１時 30 分～

編　集　後　記

紫陽花の花が見頃を迎えています。梅雨が上がればいよいよ夏本番です。節電の関係もあり、これまで以上の暑さを覚悟しなくてはなりません。数十年前にタイムスリップした気持ちで扇子や団扇、氷枕を活用し、皆で暑い夏を乗り越えて行きましょう。

編集代表　清水みゆき

～夏祭りのご案内～

日時：　７月２３日（土）

午後１時 00 分～

午後４時 00 分

場所：　２階フロア

内容：　13:00～13:45　「盆踊り」

13:50～16:00　「模擬店」

～７月の行事予定～

★ フラメンコ　踊り
７月　８日（金）　午後１時 30 分　２階

～定例催し物～

★ 音楽会【さくら草】
- ７月　７日（木）　午後 １時 30 分　２階
- ７月　28 日（木）　午後 １時 30 分　３階

★ 音楽会【宮岡久美子さん】
- ７月　５日（火）　午後　１時 30 分　２階
- ７月　11 日（月）　午前 10 時 30 分　３階

★ 朗　読
【権田さん・根岸さん】
- ７月　12 日（火）　午後３時 30 分　２階
- ７月　20 日（水）　午後３時 30 分　３階
- ７月　27 日（水）　午後３時 30 分　２階

★ 詩　吟【佐藤先生】
- ７月　13 日（水）　午後１時 30 分　２階

★ 折　紙【田中さん】
- ７月　６日（水）　午後１時 30 分　２階

手　芸　作　品
「暑中見舞い作り」

２０１１年　７月　　９３号　２０１１年７月１日発行

介護老人保健施設いづみケアセンター

いづみのホームページ　http: //www.kokoro.or.jp/izumi-care/

〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町和泉 873
TEL0493-56-6123　FAX0493-56-6124

日本一の高齢者施設を目指す
“いづみケアセンター”に勤務して

医師　横山 英世（よこやま えいせ）

未曾有の東日本大震災から早４ヵ月。地震、津波、原発崩壊により未だに将来の展望も見えず、住民の焦りが極限に達している福島県の出身です。被害の大きい浜通りから少し離れた雪深い会津の山の中で育ちました。内科出身で臨床は人間ドックなどの仕事が中心でした。４月１日の入職から３ヵ月が経ちましたが、施設自慢の大変美味な昼食を戴きつつ、充実した毎日を送っています。しかし業務では医療保険と介護保険の違いや、医療面で規制の多い老健施設への戸惑いなどで、未だ勉強の日々です。

久しく忘れていた「求められる仕事とは何か」という事を再び考えさせて頂く機会もありました。新人教育で内田施設長が熱いお言葉で「日本一の高齢者施設」を目指す意気込みを語られ、次に石川生活ケア部長が「いづみケアセンター」と「介護の仕事」へのほとばしる愛情を、情熱をもって話されました。新入職員の一人として、お二人のお話は強く心に残り、仕事への取り組みを鼓舞されるものでした。小生の切れかかった琴線に触れて感動を与えて頂きました。また老健施設の今後の展望等について調べてみたところ、当施設がつとにユニットケアなど、時代を先取りした先駆的な取り組みの活動を行っており、加えて介護職員の数も国の基準を１０人以上も上回るなど、施設長の夢の具現化に限りなく近い状況（或いは既に到達している）にあることも知りました。入職初日に驚いたのは、施設が明るく清潔なことでした。施設長が始業前に箒をもって掃除しておられる姿にも驚きました。職員が自ら取り組んで得られる清潔さは最早日本一の趣があります。

それではこの「滑川町和泉地区」にある「いづみケアセンター」で、一体自分に何が出来るのかを自分なりに愚考致しました。以前、朧気ですが地名の由来を聞いたことがあります。当地の名称は「和」に「泉」と書いて「いずみ（いづみ）」と読みます。続日本紀には和銅年間に時の女帝、元明天皇が風土記の編纂を諸国に命じると共に、それまで地形の特徴だけで構成されていた地名を、その風土や特産物、名物を象徴する言葉を用いて名付ける様に命じたと記されています。関西では大阪府の「和泉市」が有名ですが、当地の地名がいつ頃から用いられているのかは推測の域を出ません。しかし何れにせよ「和を重んじる風土の地」であったと推察されます。「一に曰く和をもって尊し」というのは聖徳太子の十七条憲法の初文ですが、古来より「和」は組織が纏まる為の最も重要な要件であったのでしょう。日本一の高齢者施設の実現にどれだけ貢献出来るか分かりませんが、せめて「和泉」の和を乱すことなく、「いづみケアセンター」の理念に基づき、利用者様の心豊かな日々の創造に資する様、業務に当たる所存です。宜しくお願い申し上げます。

施設内の行事

★ジャム作り　3 階 3 番館

5 月 30 日（月）

利用者様と一緒にジャム作りに挑戦しました。苺と林檎の２種類の絶品ジャムが出来上がり、ほっぺが落ちそうなほどの美味しさ・・・。クラッカーやヨーグルトに添えて皆で頂きました。利用者様の笑顔をご覧下さい。また作りましょうね。

★法話会

6 月 10 日（金）2 階

曹源寺の住職様にお越し頂き法話会を行いました。毎年恒例となった法話会ですが、拝聴する度に心が洗われます。利用者様も真剣な眼差しで聞き入っておられました。

★防災訓練

6 月 13 日（月）

火災発生を想定し、利用者様と職員で避難訓練を行いました。実際に火災警報装置を作動させ、消防署への通報訓練も実施しました。訓練終了後に消防署員の方から消火器使用の説明を受け、実際に職員が消火器を使って操作法を学びました。

★滑川幼稚園

6 月 17 日（金）2 階

今年も滑川幼稚園の子供たちがやって来て、歌や踊りを披露してくれました。利用者様は優しい笑みを湛え、子供たちを見つめておられました。沢山の元気を頂戴したひと時でした。

★焼き鳥パーティー

5 月 26 日（木）　2 階 3 番館

待ちに待った焼き鳥パーティー。利用者様も下ごしらえの野菜を刻んで下さるなど、積極的に参加して下さりました。中庭で炭に火を熾し、焼き鳥を焼き始めると、辺り一面に美味しそうな香りが充満・・・。皆が終始笑顔の楽しいパーティーでした。

通 所 課 の 行 事

★田植え

中庭にささやかな田んぼを作り、田植えを行いました。ここ数年、毎年行っていますが、季節感を味わうと共に昔を思い出す場面でもあります。「今年は何合出来るかな。」と早くも収穫に思いを馳せて、会話も楽しく弾みました。

施設からのお知らせ

理事就任

内田施設長が今年度より埼玉県介護老人保健施設協会の理事に就任致しました。当施設のみならず、県下の施設の全体的なレベルアップに貢献して参ります。

近藤由紀さん優秀賞受賞！！

去る２月１２日（土）に行われた第１６回埼玉県介護老人保健施設大会で、入所課主任「近藤由紀さん」の発表した研究演題が、見事「最優秀演題賞」を受賞しました。「排泄関連委員会主導によるサービス品質向上の取り組み」というテーマで発表された演題は、会場を埋め尽くした多くの方々から支持され、称賛の声が上がりました。施設としては、一昨年の石川ゆき子生活ケア部長、昨年の通所課・馬場裕美さんに続く３年連続（通算４回目）の受賞となりました。写真は受賞式の様子と「埼玉県介護老人保健施設協会・小川郁男会長」との記念撮影です。

■特別寄稿（利用者様ご家族より）　※全て原文のまま掲載させて頂きました。

主人の母が亡くなって、父を迎えて一緒に暮らすようになって 9 年経ちました。大酒飲みで、たばこをたくさん吸い、食べ物も偏食気味です。60 歳くらいから患ったパーキンソン病や多発性脳梗塞があり、歩行も困難です。自宅を改装して暮らしやすい様にし、孫や農業研修生に囲まれて楽しく過ごせば、先立たれた悲しみも癒えるかな、そして少しは「歩けるように」なるかなという期待もありました。

永らくお野菜をお届けしてきた T さんがケアマネージャーとして適格な助言をして下さり、デイサービス先としていづみケアセンターをご紹介下さいました。父も大変気に入って毎回とても楽しみにしていました。そして、その大好きないづみケアセンターで、4 月 5 日に静かな最期を迎える事ができました。スタッフの皆さんに最後まで「タシタさ～ん！」と声を掛けてもらい、嬉しそうでした。

歳をとるという事は大変な事です。何しろ面倒をみる方はまだ経験した事がないのですから、理解に苦しむ事が多いのです。加えて世代の違いによる価値観の相違もあります。父は怒鳴ったり暴れたりするような人ではなく優しかったので、介護する身としては楽でしたが、大変なことも沢山ありました。めげそうになる私をいつも支えていたのが一つの言葉でした。「子供を叱るな、来た道だ。年寄りを疎んじるな、行く道だ。」父のおかげで今日の私達があり、その隣のお爺さんやお婆さんのおかげで、便利な世の中が出来上がってきたのです。

そのお年寄りをいたわる事は、今の自分の生きている事への感謝なのです。そしてその気持ちをいつも支えて下さっていたのは、いづみケアセンターの皆さんでした。自分が歳をとったらこうしてもらいたい、そんな練習が「介護」なのかも知れません。

そして世界で一番美しい言葉を添えます。「ありがとう」　　平成 23 年 4 月　　田下　三枝子